

愛知県瀬戸市における窯垣に関する一考察

愛知工業大学 正会員 小池則満

1. はじめに

愛知県瀬戸市には洞町地区を中心に、窯垣（かまがき）と呼ばれる古い窯道具を利用した塀や壁がみられる。本研究では、窯垣が発生した背景および現況について調査するとともに、今後の保存、利用方法について考察する。

2. 窯垣の歴史と経緯

愛知県瀬戸市は、12世紀頃から焼き物の町として栄えた古い歴史をもつ。窯垣が発生したのは、地元では明治時代頃ではないかと言われている。登り窯を用いて陶器を焼く際に用いられる窯道具で古くなったものを、廃物利用として積むようになったものであり、これには、傾斜の多い地形であったことも要因としてあげられる。

その後、燃料が薪や石炭からガスに移行して、窯道具の一つである「エンゴロ」があまり用いられなくなったこともあり、窯垣は徐々に作られなくなった。

平成3年に、やきものの町としての歴史的・文化的資源を積極的に保存・活用することを目的として、瀬戸市洞町地区の有志が集まり洞町文化会を設立したのをきっかけに、窯垣の独特な景観が見直され、紹介されるようになった。その後、「窯垣の小径」の整備、平成7年に窯元であった民家を改修した「窯垣の小径資料館」がオープン、洞町で活動する陶芸家の作品を展示する「窯垣の小径ギャラリー」が、やはり民家を改修して運営されるなど、やきものの里をキーワードにした取り組みがなされている。

3. 窯垣の種類

ここでは、最近整備された「平成の窯垣」を除く古くからの窯垣について、ヒアリングや踏査をもとに考察する。

まず、窯垣に使われる窯道具として「エンゴロ」「タナイタ」「ツク」の3種類がある。これらは図-1で示すように、窯の中で積み上げられ、製品を保護、および効率よく詰め込むために用いられていた。中に詰められる製品によって、様々な大きさの「エンゴロ」「タナイタ」「ツク」が作成されたため、窯垣にも用いられているそれらの大き

さも多種多様である。それぞれの窯道具には、様々な窯元の印が記されており、窯垣の文様を豊かなものにしている。また、「エンゴロ」には小さな空気穴が2カ所程度つけられている。



図-1 窯道具の種類
(窯垣の小径資料館にて)

次に、窯垣の機能面からの分類を試みる。

①土留め

もっとも多く見られる用途である。「エンゴロ」を図-2に示すように横置きで積み上げたものが多いが、図-3のように縦に積まれたものもある。「エンゴロ」の隙間に「タナイタ」や「ツク」を埋めるようにして積み上げたものや、図-4に示すように上部が「タナイタ」「ツク」のみの組み合わせで下部が石垣のものもある。また、上部が「タナイタ」「ツク」で下部をエンゴロで積んであるものもみられ、多彩である。図-4の積み方は、石積み工法でいうところの「谷積み」の一種と考えられるほか、図-5に示す通り、石垣でいう「角石」にあたる部分において「タナイタ」を交互に組み合わせた「算木積み」も見られる。土留めの窯垣は、おおよそ高さ1m程度のものが多いようだが、高いものでは約3m程度ある。

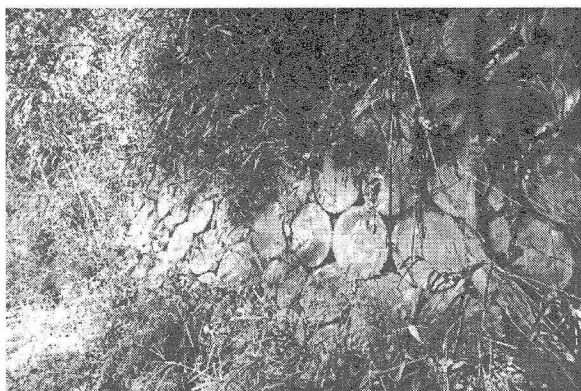


図-2 エンゴロを横に積んだ窯垣の例



図-3 エンゴロを縦に積んだ窯垣の例



図-4 タナイタ、ツクを組み合わせた窯垣の例

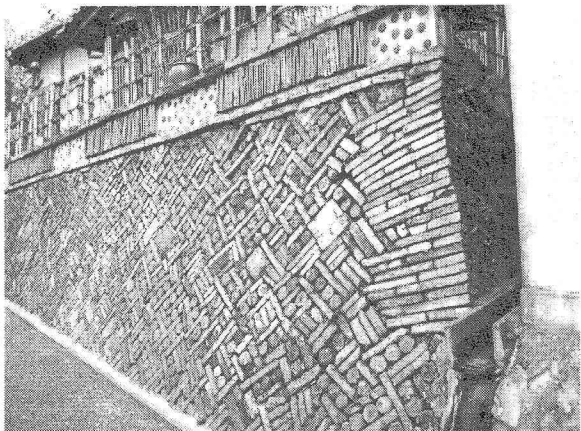


図-5 タナイタによる算木積みの例

②地面に敷き詰める方法

「窯垣の小径資料館」ほかでみられる。図-6に示すように、「タナイタ」などを敷き詰め、舗装材のようにして用いている。また、「エンゴロ」等も組み合わせて作られた階段も見られる。

③そのほか

塀、門柱に用いられているものや、花壇の縁取りに用いられるなど、様々な使われ方をしている。



図-6 舗装材のように用いられた窯垣の例

4. まとめと今後の課題

窯垣は、地域の産業遺産として極めて特徴的であり、今後とも保存、活用されていくことが望まれるが、土木工学的視点からの課題として、次のようなことが挙げられる。

- ①雑木林や雑草の中に埋もれてしまい、崩れかかっている窯垣が見受けられる。まず、窯垣の早急な現況調査が必要である。
- ②素材が陶器であるため、ひび割れが多数生じているところがある。補修のあり方について検討する必要がある。
- ③積み方が大変精巧な窯垣もあり、石工によって構築された可能性もある。窯垣発生の経緯について詳しく調べる必要がある。

【謝辞】 本研究遂行にあたってお世話になった瀬戸市役所、洞町文化会の方々に厚く御礼申し上げます。